



【教育目標】心豊かに 学び合う

みどりの丘

新潟市立西内野小学校
 学校だより No.5
 令和6年9月2日
 新潟市西区内野上新町 308-1
 TEL 025(261)0480
 FAX 025(261)0780
 <学校 HP>
<https://blog.city-niigata.ed.jp/nisichinoblog/>
 E-mail e713nishikko@city-niigata.ed.jp



オリンピックでの感動 ～2人の日本人選手の言葉～

校長 橋本 忍

夏休み明けの全校朝会で、次の話をしました。

37日間の夏休みが昨日で終わりました。今日、皆さんが学校に登校できたこと、朝、玄関で皆さんとあいさつすることができたことがとても嬉しいことです。

さて、夏休み前にした4つのお願い、みなさんはできたでしょうか。その中の1つ、オリンピックの話をしていきます。夏休みはパリオリンピックをテレビでたくさん見て、日本代表の選手を応援していました。選手の皆さんが頑張っていたのはもちろん素晴らしかったのですが、インタビューをされたときの言葉にも、「すごいなあ」と感動した場面がたくさんありました。これから「スケートボード」の種目に出た2人の言葉を紹介していきます。スケートボードは、ジャンプをする、手すりの上を滑り降りるなどいろいろな技があり、その技を成功させることで点数をとって、他の選手と得点を競う種目です。難しい技ほど得点が高いし、転んだりして失敗すれば、得点が減らされてしまう競技です。

1人目は、四十住さくら（よそずみさくら）選手の言葉です。四十住選手は、他の選手が失敗すれば自分の順位が上がるスケートボードに出ているにもかかわらず、「人の失敗は祈りたくない」と話しています。選手みんなが最高の技を決めてほしい、順位だけにこだわるのではなく、相手を思いやるような優しい気持ちをもっていることに感動しました。

2人目は、堀米雄斗（ほりごめゆうと）選手の言葉です。堀米選手がオリンピックの最後に決めようとしていた技はとても難しく、直前の練習でも1回も成功していなかったそうです。おそらく本番で成功する可能性は1%くらいしかない、そんな状況で堀米選手はこう考えました。「可能性が1%もあるなら自分はチャレンジする」そして最後の1回、見事にその技を決め、金メダルを取りました。「可能性が1%しかないならやめようかな」と考えてしまいそうですが、堀米選手は努力してきた自分の力を信じたからこそ、1%の可能性に挑戦できたのだと思います。

今日は、2人の選手のオリンピックでのお話をしました。今日から1学期後半が始まります。みなさんにも、四十住選手、堀米選手のように、人に優しく、自分の力を信じて、何事にも頑張ってもらいたいと思っています。

新潟市小学生陸上競技記録会入賞

非行被害防止キャンペーン啓発ポスター

5年男子100m	第4位	水倉優翔さん
	第14位	上地飛源さん
6年女子100m	第5位	星野明梨さん
5年男子走り幅跳び	第8位	早川陽大さん
5年男女混合リレー	第10位	水倉優翔さん・加藤楓汰さん 齋藤ななさん・小林愛佳さん

最優秀賞 6年 藤本彩羽さん

